



# 第53回定時株主総会

2023年6月27日

石油資源開発株式会社  
(証券コード：1662)

# 【報告事項】

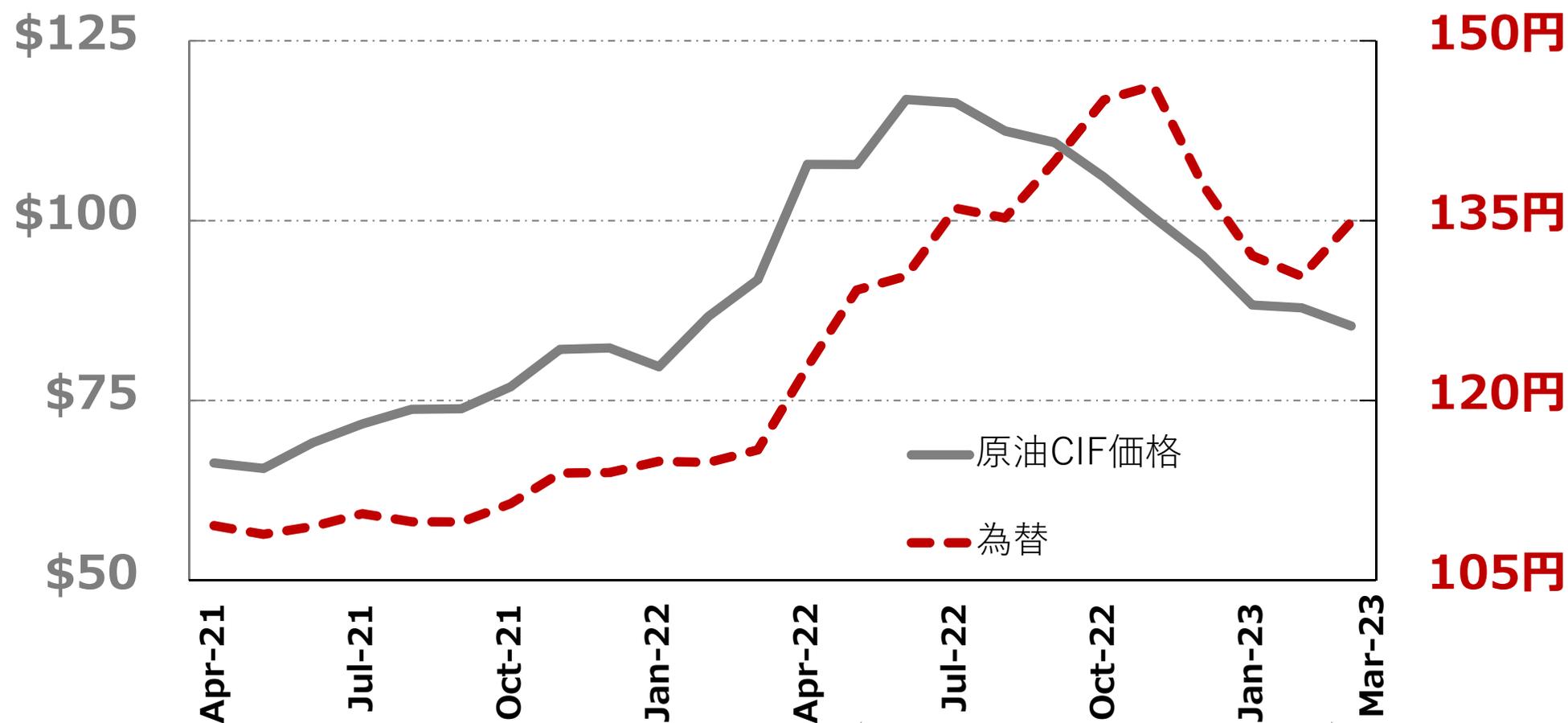
1. 第53期〔自 2022年4月 1日  
至 2023年3月31日〕事業報告、連結計算書類並びに会計監査人及び監査役会の連結計算書類監査結果報告の件
2. 第53期〔自 2022年4月 1日  
至 2023年3月31日〕計算書類報告の件

# 事業の経過及び成果

# 当年度の事業環境 原油CIF価格と為替の動き

[原油CIF価格] USD/bbl

[為替] 円/USD



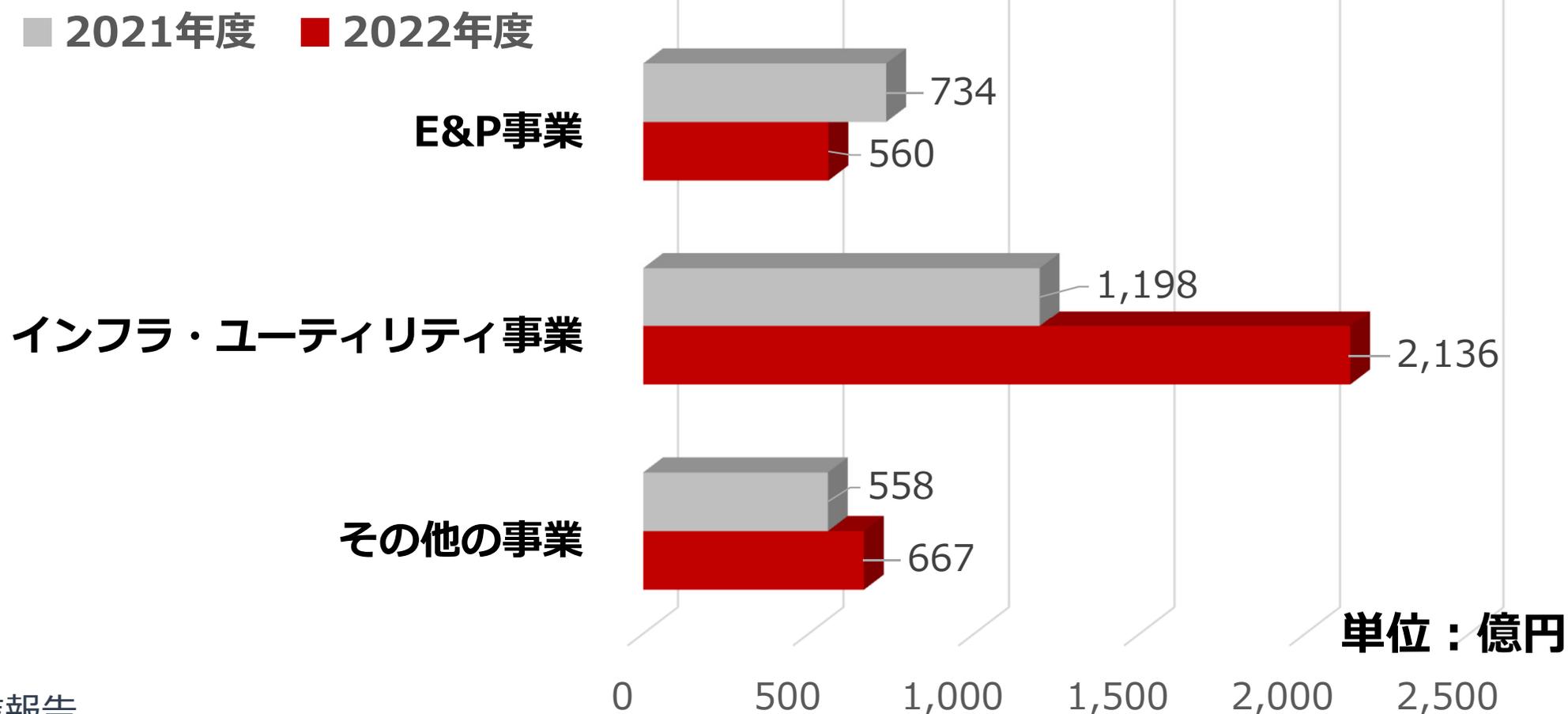
事業報告

1. 企業集団の現況 (1) 事業の経過及び成果

2022年度

# 当年度（2022年度）の業績 ① 【売上高】

## 売上高 3,364億円（前年度比+873億円 +35%）



事業報告

1. 企業集団の現況 (1) 事業の経過及び成果

# 当年度（2022年度）の業績 ②

—業績の状況—

[億円]	2021年度	2022年度	比較増減	
売上高	2,491	<b>3,364</b>	+873	+35%
営業利益	198	<b>620</b>	+422	+213%
経常利益	436	<b>831</b>	+394	+90%
親会社株主に 帰属する 当期純損益	▲309	<b>673</b>	+983	-

## 事業報告

### 1. 企業集団の現況 (1) 事業の経過及び成果

# 連結貸借対照表

2023年3月31日現在

—業績の状況—

[億円]	2021年度	2022年度	比較増減	
<b>資 産</b>	<b>4,719</b>	<b>5,681</b>	+962	+20%
流動資産	2,269	2,817	+548	+24%
有形固定資産	928	1,184	+255	+27%
無形固定資産	58	55	▲2	▲5%
投資その他の資産	1,463	1,624	+160	+11%
<b>負 債</b>	<b>691</b>	<b>1,110</b>	+418	+60%
<b>純 資 産</b>	<b>4,027</b>	<b>4,571</b>	+543	+13%
うち利益剰余金	3,105	3,629	+523	+16%
<b>負 債 ・ 純 資 産</b>	<b>4,719</b>	<b>5,681</b>	+962	+20%

## 事業報告

### 1. 企業集団の現況 (1) 事業の経過及び成果

# E&P事業

E&P事業：石油・天然ガスの探鉱、開発・生産、および輸送・販売

当社E&P事業拠点（2023年6月時点） 日本国内**10**か所＋海外**6**か所

**O&G** ノルウェー領海上鉱区

**O&G** 英領北海・シーガルプロジェクト **OIL** ロシア・サハリン1プロジェクト

イラク・ガラフプロジェクト

**OIL**

**O&G**

日本・国内油ガス田

**OIL**

アメリカ・  
タイトオイル開発

**GAS**

インドネシア・  
カンゲアンプロジェクト



事業報告

1. 企業集団の現況 (1) 事業の経過及び成果

# インフラ・ユーティリティ事業

## 当社が開発・運営に参画する国内発電所（2023年6月時点）

拠点合計 **7**か所 出力合計 **1,389,550kW**

うち再エネ **6**か所 うち再エネ **209,550kW**

\*出力合計値はGross

網走バイオマス発電所

2号機・3号機

BIO

PV

北海道事業所

メガソーラー

PV

勇払太陽光

発電所

新潟・仙台間他

ガスパイプライン

日本海エル・

エヌ・ジー(株)新潟基地

相馬LNG基地

LNG

福島天然ガス発電所

長府バイオマス

発電所

BIO

BIO

大洲バイオマス

発電所

BIO

田原バイオマス

発電所

パイプライン

LNG基地

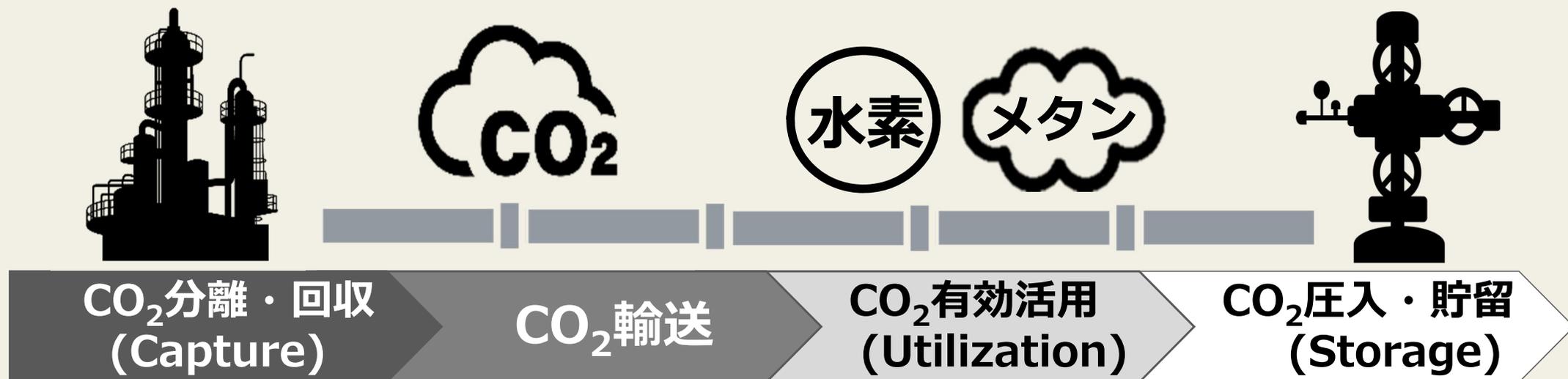
再エネ発電所

ガス発電所

再エネ発電所  
(建設中)

# その他の事業 - カーボンニュートラル

## CCS (CO<sub>2</sub>の回収・貯留) / CCUS (CO<sub>2</sub>の回収・有効活用・貯留) の流れ



### ● CCS/CCUSの実現可能性検討

- 国内：北海道・苫小牧エリア、新潟エリア
- 海外：インドネシア、マレーシア

事業報告

1. 企業集団の現況 (1) 事業の経過及び成果

# 対処すべき課題

# 「JAPEX経営計画2022-2030」概要①

- 2022年度から2030年度まで（9年度）の中長期経営計画
- 収益力の強化と、2030年以降を見据えた事業基盤の構築を基本方針
- 各分野の重点項目の推進などにより、資本コストに見合う利益水準の達成と、株主還元強化を目指す
  - 9年間累計のキャッシュイン5,000億円を、成長投資4,500億円と株主還元500億円に配分

## 事業基盤

### E&P分野

新規権益取得への投資継続と操業の低炭素化対応推進

### I/U<sup>\*1</sup>分野

再生可能エネルギーをはじめとする事業規模の拡大

### CN<sup>\*2</sup>分野

既存油ガス田などを活用したハブ&クラスター<sup>\*3</sup>型CCS/CCUSモデル事業

\*1: インフラ・ユーティリティ（Infrastructure & Utility）の略、\*2: CN=カーボンニュートラル（Carbon Neutral）の略、\*3: 複数のCO2排出源やCO2貯留サイトを連結するCCS/CCUSネットワーク

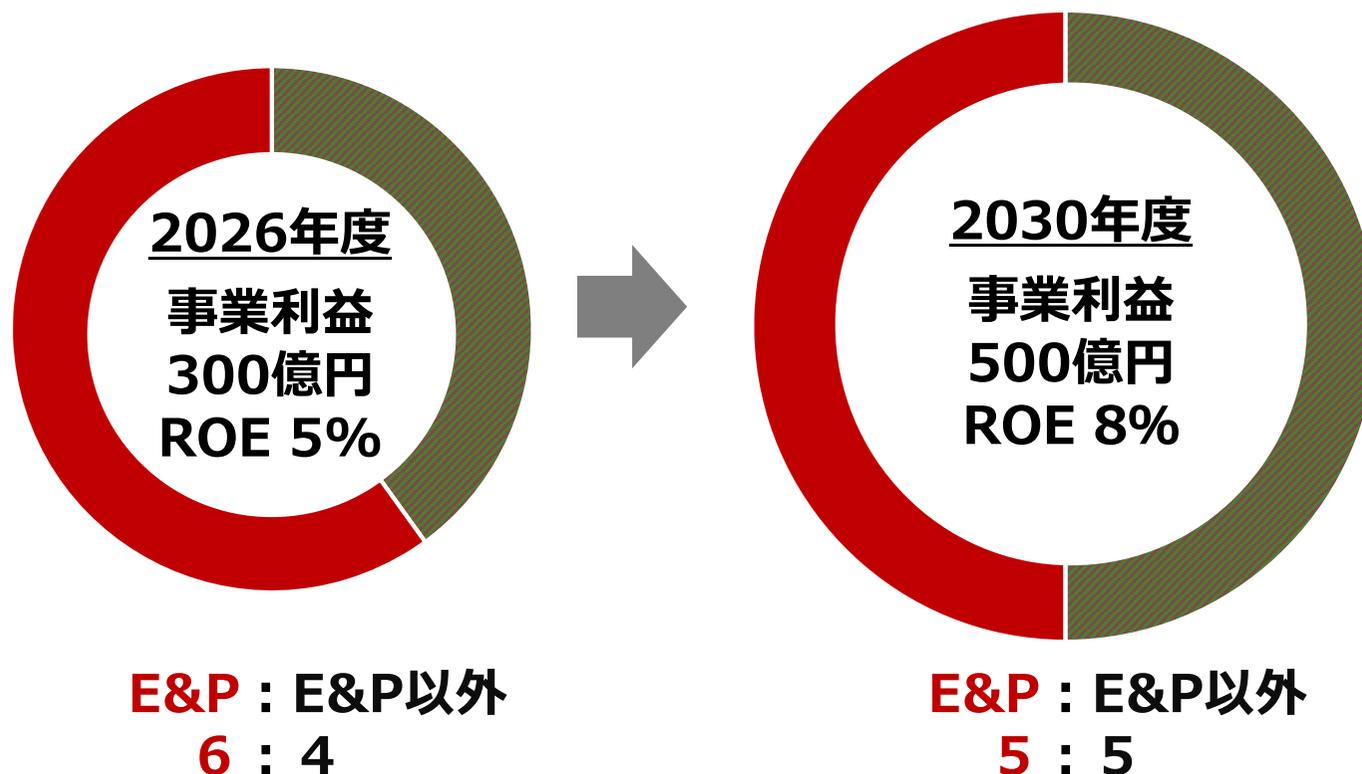
## 事業報告

### 1. 企業集団の現況 (2) 対処すべき課題

## 「JAPEX経営計画2022-2030」概要②

- 事業利益\*、ROE、事業利益割合を、定量目標として設定
- それぞれの項目で、2026年度時点の中間目標、2030年度時点の長期目標を設定

### 定量目標



\*営業利益および持分法投資利益等（投資事業有限責任組合契約や匿名組合契約にもとづき分配される利益を含む）

事業報告

1. 企業集団の現況 (2) 対処すべき課題

# 「JAPEX経営計画2022-2030」の進捗と目標

	2022年度	2023年度
E&P 分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 国内ポテンシャル追求               <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 片貝ガス田追加開発：1坑目掘削</li> </ul> </li> <li>● 海外新規権益獲得               <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ アメリカ・タイトオイル開発への投資拡大</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 国内ポテンシャル追求               <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 片貝追加開発：1坑目生産/2坑目掘削</li> </ul> </li> <li>● 海外既存PJ開発推進               <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 英領北海・シーガル：原油・天然ガス生産</li> </ul> </li> <li>● 海外新規権益獲得               <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ ノルウェー領海上鉦区探鉦・開発事業への参加決定</li> </ul> </li> </ul>
I/U 分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ガス供給量の維持・拡大               <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ LNGバンカリング供給トライアル実施</li> <li>➢ LNG燃料船への燃料LNG供給に合意</li> </ul> </li> <li>● 国内再生可能エネルギー開発など               <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 網走バイオマス発電所2&amp;3号機営業運転開始</li> <li>➢ ANRI-GREENファンド1号への出資</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ガス供給量の維持・拡大               <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 日本ベーリンガーインゲルハイム製薬(株)山形工場向けESPサービス提供</li> </ul> </li> </ul>
CN 分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 国内CN事業実現可能性検討               <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ (苫小牧) CCS/CCUS実現可能性検討</li> <li>➢ (苫小牧) 地域間連携カーボンリサイクル事業可能性検討終了</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 国内CN事業実現可能性検討               <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ (苫小牧、東新潟) CCS/CCUS実現可能性検討</li> </ul> </li> </ul>

# 株主還元・ESGへの取組み

		2022年度	2023年度
ESG	株主還元	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 連結配当性向（30%目安）の導入</li> <li>● 自己株式取得終了 / 取得自己株式全数消却</li> </ul> <p style="text-align: center;"><b>配当金実績：年間合計370円</b> (配当性向29.9%)</p>	<p style="text-align: center;"><b>配当金見通し：年間合計200円</b> (配当性向31.9%)</p>
	E 環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>● CN事業委員会設置</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>気候変動関連開示の充実</b></p>
	S 社会	<p><b>【人的資本マネジメント強化】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● DX資格取得奨励策導入</li> <li>● 人材マネジメントシステム刷新</li> </ul> <p><b>【DX推進】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 全社BPR検討開始</li> <li>● 全社ポータル内の社内SNS移行</li> </ul> <p><b>【その他】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 人権方針制定</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>人的資本への投資と関連開示の充実</b></p> <p style="text-align: center;"><b>DXなどを活用した 組織・業務の最適化推進</b></p>
	G ガバナンス	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 役員報酬の一部を全社気候変動対応に連動（2022年度以降に係る賞与の支給方針）</li> <li>● 社外取締役増員（4→5名）、女性取締役増員（1→2名）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 買収防衛策更新（本定時株主総会議案）</li> </ul> <p style="text-align: center;"><b>株主価値向上のための 東証要請などへの対応</b></p>